



TITLE:

ポリープ型を呈した男子傍尿道口 嚢腫の1例

AUTHOR(S):

川村, 繁美; 後藤, 康樹; 後藤, 康文

CITATION:

川村, 繁美 ...[et al]. ポリープ型を呈した男子傍尿道口嚢腫の1例. 泌尿器科紀要 2000, 46(12): 911-914

ISSUE DATE:

2000-12

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/114421>

RIGHT:

ポリープ型を呈した男子傍尿道口嚢腫の1例

後藤泌尿器科皮膚科医院 (院長: 後藤康文)

川村 繁美, 後藤 康樹, 後藤 康文

A CASE OF POLYPOID FORM OF PARAMEATAL URETHRAL CYST

Shigemi KAWAMURA, Yasuki GOTO and Yasufumi GOTO

From the Goto Urologic and Dermatological Clinic

A 45-year-old man first noticed a soft tumor on his left lip of the urethral meatus at the age of 15. The lesion had gradually been increasing in size during the last 10 years.

He presented to our clinic with division of urinary stream which had been persisting for about nine months. The tumor was resected, and histopathological examination revealed that it was a mucous cyst. The cyst had an outer wall of stratified squamous epithelium and an inner wall of stratified columnar epithelium. Since the inner wall was covered with epithelium originating from the urethral mucosa and the lesion was located outside the urethral meatus, a diagnosis of parametatal urethral cyst was made. Recently, parametatal urethral cyst has rarely been reported since it is often clinically insignificant and remains asymptomatic. In our patient, the tumor showed polypoid growth and caused difficulty in urination. The mechanism of its development is considered based on a review of the literature.

(Acta Urol. Jpn. 46: 911-914, 2000)

Key words: Parametatal urethral cyst, Polypoid form

緒 言

男子傍尿道口嚢腫の臨床的意義は少なく、無症状に経過することが多いため文献的報告は稀少である。今回、排尿異常を訴え来院した1例を経験したので文献的考察を加えて報告する。

症 例

患者: 45歳, 男性

主訴: 外尿道口の腫瘍および尿線の散乱。

既往歴: 1985年精神分裂病を発症, 以後入退院を繰

り返す

家族歴: 25歳で結婚, 2児をもうける。現在, 離婚。

現病歴: 15歳頃より外尿道口の腫瘍に気付いていたが放置していた。約10年前より同腫瘍が徐々に増大し, 1998年初旬より尿線の散乱が著明となったため同年9月8日, 初診した。

現症: 外尿道口, 口唇部より懸垂する約1×1 cm大, ほぼ球形の透光性のある腫瘍を認めた (Fig. 1a)。外尿道口を指で開口したところ腫瘍茎部は外尿道口左側縁に位置した。腫瘍を被覆する上皮は口唇部の上皮

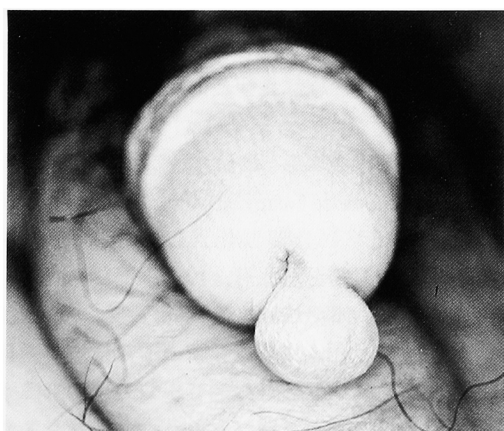


Fig. 1a. A globular tumor (about 1×1 cm) is suspended from the lip of the urethral meatus.

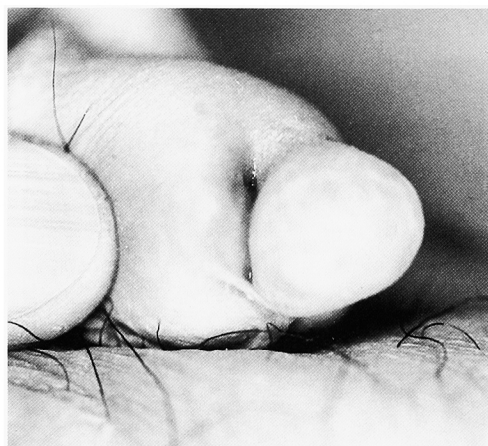


Fig. 1b. The pedicle of the tumor is located at the inner margin of the urethral meatus.

および陰茎亀頭上皮と連続しており境界は不明瞭であった (Fig. 1b).

手術所見：同日、局所麻酔下に外尿道口の腫瘍茎部の皮膚を円弧状に切開し腫瘍を摘出した (Fig. 2a). 腫瘍内は無色透明な粘液で満たされていた.

腫瘍断面の内面を被う上皮は平滑で、毛髪あるいは腫瘍などは認められなかった (Fig. 2b).

病理組織学的所見：腫瘍壁の内面を被う上皮は重層円柱上皮で一部に粘液産生細胞および粘液腺を認めた. 腫瘍外壁は重層扁平上皮に被われており、亀頭部の上皮に連続していた. 以上より組織学的に粘液嚢腫 (mucoid cyst) と診断した (Fig. 3a, b).

術後経過：術後10日目、外尿道口左側縁は癒痕により軽度の陥凹を認めるも尿線の散乱は消失し経過良好である.

考 察

男子傍尿道口嚢腫は文献上、乳児検診で500人中3名の割合で見いだされ決して稀な疾患ではない¹⁾. また臨床的意義も少ないため近年、文献の報告は稀であ

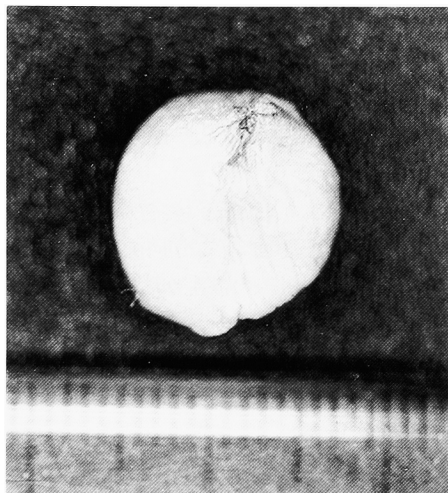


Fig. 2a. The resected specimen is shown.

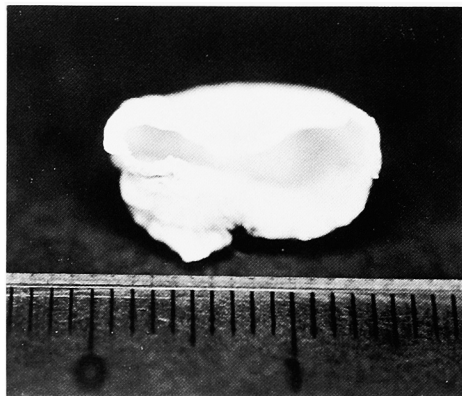


Fig. 2b. The cut surface of the resected specimen is shown. The interior of the tumor is filled with clear mucus.

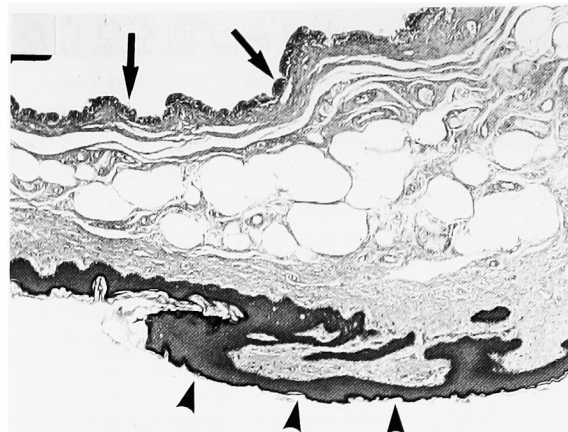


Fig. 3a. The outer wall arrow-heads of the tumor is covered with stratified squamous epithelium, and the inner wall arrows is covered with stratified columnar epithelium.

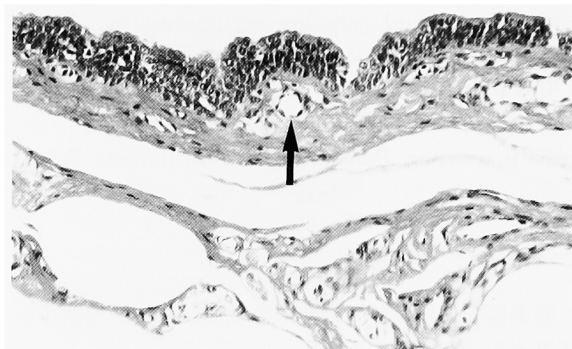


Fig. 3b. In some areas, mucus-producing cells and mucus glands (arrows) were observed.

る. 著者らが検索しえたかぎりでは1984年、中目ら²⁾が本邦32例を集計し、その後、1986年に吉田ら³⁾が3例を報告したのみで自験例は36例目にあたる. 1990年、窪田ら⁴⁾は本症を発生部位により 1) 外尿道口唇部、2) 包皮小帯部、3) 包皮縫線部、4) 陰茎縫線部、5) 陰囊縫線部、6) 会陰縫線部の6型に分類し、検討している. 最も頻度の多いものは自験例の尿道口唇部嚢腫であり、包皮縫線部嚢腫と併せると70%以上を占めている.

一方、1986年、吉田ら³⁾は傍尿道口嚢腫をその形態から凸状形 (convex form) とポリープ状形 (polypoid form) の2型に分類した. これにしたがい本邦報告36例を分類すると凸状形、10例、ポリープ状形、9例で表記のない不明例は17例であった. 自験例はポリープ状形を呈した傍尿道口嚢腫の本邦報告9例目にあたる. また9例中、最も高齢でかつ大きく、排尿異常を呈した点は希有な1例である. 一方、これまでこれら2型の形態の発生の相違について検討した報告はない. そこで嚢腫の大きさ、嚢腫内面を覆う組織型、

Table 1. Cases of polypoid and convex form parametatal urethral cyst in Japan

症例	年代	年齢	大きさ	形態	発症～初診 までの期間	治療	組織型	報告者	記載誌
1	1919	23	米粒大	convex	10年	切除	円柱上皮	大野	北越医誌 34(6): 465, 1919
2	1975	20	小豆大	convex	14年	切除	移行, 一部 円柱上皮	今井, ほか	日皮会誌 85(13): 856, 1975
3	1975	24	大豆大	convex	10年	切除	円柱, 立方 上皮	篠島	西日皮膚 37(1): 33, 1975
4	1976	27	6×4 mm	convex	10年	切除	円柱, 立方 上皮	橘	日皮会誌 86(2): 178, 1976
5	1978	43	小豆大	convex	0	切除	円柱上皮	東海林, ほか	臨泌 32(8): 785, 1978
6	1978	14	小豆大	convex	3年	切除	移行上皮	東海林, ほか	臨泌 32(8): 785, 1978
7	1981	40	小豆大	convex	35年	切除	移行, 円柱 上皮	畑昌, ほか	日泌尿会誌 72(5): 371, 1981
8	1986	25	6×9 mm	convex	7年	切除	立方, 円 柱, 一部移 行上皮	吉田, ほか	西日泌尿 48(2): 457, 1986
9	1986	18	8×9 mm	convex	2年	切除	円柱上皮	吉田, ほか	西日泌尿 48(2): 457, 1986
10	1986	59	9×9 cm	convex	10年	切除	円柱, 一部 移行上皮	吉田, ほか	西日泌尿 48(2): 457, 1986
1	1919	9	小豆大	polypoid	?	切開	?	大野	北越医誌 34(6): 465, 1919
2	1919	22	大豆大	polypoid	15年	切除	円柱上皮	大野	北越医誌 34(6): 465, 1919
3	1941	22	大指頭大	polypoid	0	切除	円柱上皮	桐島	皮膚科図説 58(1): 340, 1941
4	1961	38	小豆大	polypoid	30年	未治療	?	森山	臨床皮泌 15(2): 129, 1961
5	1962	10	小指頭大	polypoid	2年	切除	円柱, 一部 移行上皮	佐藤, ほか	札幌医誌 19(1): 70, 1961
6	1965	9	小指頭大	polypoid	6ヵ月	切除	円柱, 立方 上皮	並木, ほか	臨床皮泌 18(8): 815, 1964
7	1967	21	小指頭大	polypoid	3年	穿刺	?	武田	日泌尿会誌 58(8): 893, 1967
8	1983	16	9×8 mm	polypoid	13年	切除	円柱 or 扁 平上皮	中目, ほか	泌尿紀要 30(5): 695, 1984
9	2000	45	10×10 mm	polypoid	10年	切除	円柱上皮	自験例	

発症から初診までの期間について比較, 検討した結果, ポリープ状嚢腫の大きさは小指頭大から 10×10 mm 大であり, 凸形状が米粒大から大豆大 (9×9 mm) であるのに比して大きい傾向を示した. 一方, 嚢腫内面を覆う組織型はいずれの形状でも円柱上皮が主体を占め, またいずれの形状でも発症から初診までの期間に大差はなかった (Table 1). これらのことより凸形状とポリープ形状の発生要因の違いは上皮の発育様式の差によるものではなく, むしろ腺上皮からの粘液産生・分泌量の多少の差によるものと推察された.

成因については 1) 嚢腫内面の上皮が円柱, 立方あるいは移行上皮で形成され一部に腺管構造を示すこと, 2) 嚢腫壁の一部が尿道口内側縁に位置することなどより尿道側管の先天的 (迷入), 後天的異常 (閉塞) により粘液の貯留をきたし発生したとする説が一般的である^{5,6)} 自験例も嚢腫内壁が尿道粘膜由来の重層円柱上皮に覆われ, 外壁が龟头上皮由来の重層扁平上皮に覆われており, これまでの説を裏付ける尿道側管の異常がかかわっているものと考えられる.

治療はほとんどの例で症状を欠くため放置されることが多いが, 自験例のごとく排尿異常や性交障害をき

たす際, あるいは形態的違和感を訴える場合には原則的に外科的切除が行われる. われわれの施設では 5 mm 前後の小嚢胞に対しては電気凝固による焼却を積極的に行い切除と同様の良好な成績をおさめている.

結 語

45歳, 男性に発生した傍外尿道口嚢腫の 1 例を報告した. 自験例はポリープ形状を呈した傍尿道口嚢腫の本邦報告 9 例目にあたり, 来院時の年齢が 45 歳と高いこと, 嚢腫の大きさが 1 cm を越え, 尿線の散乱など臨床症状を呈した点, 希有なる症例と考えられた.

文 献

- 1) 市川篤二, 落合京一郎, 高安久雄: 尿路性器の先天異常. 性器会陰部縫線嚢胞および管腔. 新臨床泌尿器科全書. pp. 138-149, 金原出版, 東京, 1986
- 2) 中目康彦, 吉田謙一郎, 金親史尚, ほか: 傍尿道口嚢腫—自験例 2 例を含めた本邦報告例 32 例の検討—. 泌尿紀要 30: 695-699, 1984
- 3) 吉田和弘, 長谷川潤, 大原正雄, ほか: 男子傍尿道口嚢腫. 西日泌尿 48: 457-459, 1986

- 4) 窪田泰夫, 大竹直人, 吉村浩太郎, ほか: 包皮縫線嚢胞の2例. 臨皮 **44**: 303-306, 1990
- 5) 柳原宏四, 原田 正, 鈴木雅裕, ほか: 陰茎縫線嚢腫の2例. 皮膚 **29**: 478-481, 1987
- 6) 荷見圭子, 柴田敦子, 徳田安章: Cysts of the Penile Raphe の3例. 臨皮 **39**: 155-160, 1985
(Received on December 15, 1999)
(Accepted on July 4, 2000)